

第63回山形県市町村教育委員会大会 会長あいさつ

皆様、こんにちは。山形県市町村教育委員会協議会の会長を仰せつかっております、山形市教育委員会教育長の荒澤賢雄です。第63回山形県市町村教育委員会大会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

まずもって、6月に発生しました山形県沖地震で被災されました自治体の皆様にお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。また、災害対応で大変な中にも関わらず、今回の大会の開催にご尽力いただきました酒田市並びに酒田市教育委員会をはじめ、庄内地区の各教育委員会の皆様にご心から感謝申し上げます。

日本有数の米どころ。また、雄大な庄内平野の中央を流れる最上川の河口に開かれた「酒田港」を拠点とし、古くから日本海の海上交易と最上川の舟運の要として発展してきた、ここ酒田市において、庄内総合支庁総務企画部長 沼沢弘幸様、山形県教育委員会教育長職務代理者 涌井朋子様、並びに山形県議会副議長 鈴木孝様、そして、酒田市副市長 矢口明子様をはじめ多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、本大会を開催できますことを心より感謝申し上げます。

また、本日は、猛暑の中、県内の各市町村教育委員会から、このように多くの皆様のご参加をいただきました。改めまして厚く御礼申し上げます。

さらに、本日、表彰及び感謝状を受けられる皆様におかれましては、長年にわたり、教育委員・教育長としての職責を立派に果たされ、本県教育の向上に大きく寄与してこられました。これまでのご労苦に対しまして、深甚なる敬意と感謝を表します。

今後とも本県教育の振興、あわせまして、本協議会の事業の充実にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

さて、来年度から、いよいよ、小学校を皮切りに新しい学習指導要領が完全実施されます。どの教委でも、教育環境の整備やその他の様々な詰めの対応に追われていることと存じます。

また、各学校において生じる諸問題の解決のために、懸命にご努力されている毎日ではないでしょうか。子ども達や教職員、各学校が直面している様々な問題を正面からとらえ、迅速かつ的確に、ひとつひとつに対して、責任ある対応をとっていくことが市町村教委の重要な使命であります。

さらに、教職員の働き方改革を進め、教員が子どもと向き合う時間をしっかりと確保していかなければなりません。加えて、教職員の不祥事防止の実効性もさらに高めていく必要があります。

その他にも、近年、子どもと教職員に関わる懸案事項が全県下でより深刻化していることを感じます。それは、不登校児童生徒の急激な増加と教職員の大量退職、大量採用に起因する課題のことです。

不登校については、平成27年度まで小中合わせて1%以下であった発生率が平成29年度は1.21%まで増加しました。少子化が進行する中であって、たった2年間で0.2%以上増えたこととなります。不登校児童生徒実数では、小中合わせて平成27年度は869名でしたが、平成29年度は1020名と大台を超えました。昨年度、平成30年度の不登校発生率はまだ公表されておりませんが、1.3%に近づいていることが容易に想像されます。不登校対策については、これまでとは違った新たなアプローチを模索し、実践していかねばならない時期に来ていることを強く感じております。

また、若手教員の急激な増加に対しては、小学校の採用試験の倍率が2倍を切った事実と併せて、初任者研修のみならず、教員養成大学での育成も含めた、教職員の質の維持向上を目指した対策が急務です。また、全県的な取組みとして、ベテラン教員の教育理念や教育技術の若手教員への適切な継承を促す意図的な現職教育の充実が望まれます。

このように私達の目の前には、課題が山積みです。しかし、このような時だからこそ、私達自身の更なる研鑽と共に、市町村教育委員会相互の連携による情報共有を一層進め、協力体制をさらに充実させることが重要であり、本日のように県内市町村教育委員会の皆様が一同に会し、本大会を開催できますことは大変意義深いものであると考えております。

ところで、本日は、記念講演といたしまして、声楽家の市原 多朗様をお招きし、「伸び方は十人十色～市原多朗成長物語～」と題してご講演いただきます。

講師の市原様には、大変ご多用中にもかかわらず、ご講演をお引き受けいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

結びになりますが、本大会の開催にあたりご尽力いただきました、酒田市並びに酒田市教育委員会をはじめ、庄内地区の各教育委員会、そして、関係各位に心から感謝・御礼申し上げますと共に、ここにお集まりの皆様、なお一層のご活躍とご健勝をご祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

本日の教育委員会大会、最後まで、どうぞよろしくご願ひ申し上げます。